堺市の生物多様性にふれる冊子

堺いきもの通信

キタテハ

2024 秋号

堺にすむ いきものたち

生物多様性とは、単に動物や植物の種類が多いということだけを意味するものではありません。地球上では、様々な環境の中で多様な生き物が食べる・食べられる・共生するなど、お互いにつながりをもって生きています。このように、多様な生き物がお互いにつながりをもって生きていることを生物多様性といいます。
ここでご紹介する写真は、すべて堺市内で撮影された写真ですWEBサイト「堺いきもの情報館」に市民の方などからご投稿いただきました。個性豊かな生き物たちや彼らのすみかを見て・知って生物多様性を感じてみてください。
生物多様性とは、身近なものなんですよ！

ナミアゲハ

ジョウビタキ

リスアカネ

キゴシハナアブ

キカシグサ

クサガメ

ヒヨドリ

ハマガニ

ツマグロヒョウモン

アシボソノボリリュウタケ

もっと いき もの知りになれる！

生物多様性のおはなし

－交雑種と遺伝子汚染－

今回は、外来種問題を少し掘り下げ、交雑種とそれによる遺伝子汚染に焦点を当てます。

交雑種とは、外来種と近縁の在来種との間に誕生した個体で、在来種が持つ純粋な遺伝的特性を有しません。交雑種の出現により、エサやすみかをめぐる争いが発生しますが、それだけが問題ではありません。交雑種が、在来種との間で子どもを残すことができる場合、交雑が進むにつれて、在来種が減少し、最終的に交雑種のみとなる最悪の事態が起こりうるのです。このように交雑が進んだ結果、在来種の遺伝的特性が失われることを遺伝子汚染といいます。また、子どもを残せない場合でも、在来種は配偶子（精子と卵子）を無駄にしたことになり、結果的に在来種の個体数は減少します。やはり、交雑種の出現は大きな問題なのです。

次に、別角度から交雑種問題を考えます。この問題の特徴は、発覚が容易でないことです。交雑オオサンショウウオが特定外来生物に指定されるというニュースをご存知ですか。外来種との間に生まれた交雑個体は、見た目がオオサンショウウオに酷似しており、遺伝子解析なしでは判別できないほどです。これまで保護していた個体群に交雑種が紛れており、予想を超える早さで遺伝子汚染が進んでいたという事実は、大きな衝撃として報じられました。また、事態を把握できたとしても、交雑種を生態系から締め出すことは極めて困難です。

外来種とは、国外から持ち込まれる生き物に限ってはいません。国内の別地域から持ち込まれた生き物も外来種です。地域ごとの固有性（遺伝的特性）を考慮せず、別地域のホタルを放流したことにより、交雑種が誕生し、地域固有性が失われたという報告もあります。生物多様性を守ることは、単純に生き物を守る・増やすということではありません。地域の固有性を守るという視点を持ち、正しく自然や生き物を大切にしましょう。

（参考）交雑がもたらす遺伝子汚染の実態
国内外来種としてのホタルについて

堺市の生物多様性を考えるWEBサイト
さかい じょう ほう かん
堺いきもの情報館

≪編集・発行≫

堺市環境局　環境保全部　環境共生課
TEL：072-228-7440　/　FAX：072-228-7317
E-mail：kankyo@city.sakai.lg.jp

WEBサイト
トップページ

ユーザーネーム
sakai_ikimono
Instagram
アカウント